

2月、児童朝会での子どもの発言を紹介します。

「先週の代表委員会で、全校生で話し合ってた。その時を考えた。その時に、友達のことを『おまえ』と言っている人がいると出ました。私たちには名前があるのだから、きちんと名前を呼ぶようにしよう。』というものです。

「おまえ」と言われた子は、嫌な気持ちが残っていたのでしよう。嫌な気持ちを心に秘めず、「いや」だと言う意思をもち、友達が自分と同じように嫌な思いをすることがないようにと学級で意見として出したところ、全校生に呼びかけられることになりました。ともすれば、見過ごしてしまい小さな出来事ですが、子どもたちは人権の根幹を心で感じて理解し、行動に移した大きな出来事だと思います。

6年生の教室では日本国憲法前文を読む声が聞こえてきます。国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3大原則について考え始めて



コラム
人権の眼 No.58

「小さな芽」

淡路市立中田小学校校長 **織田 恵**

学校では、教科の学習とともに、女性・子ども・ジェンダー・高齢者・障がいのある方・外国人・同和問題等の人権課題を通して人権の意義・内容や重要性について理解し、「自他の大切さを認めること」を根底において、人権教育を推進しています。

「遊ぼう」というと『遊ぼう』っていうと『ごめんね』っていうと『ごめんね』っていう。こだまでしょうか、いいえ、誰でも。』というフレーズがあります。小さな社会と言われる学校の中で、ことばを大切に共鳴できる心をもち、人権の芽を育てている子どもたちがいます。

サラーマット

あなたの言葉で

仕事や観光などさまざまな目的をもって日本を訪れる外国人。中には、日本を第2の故郷として暮らすなど、地域と密接にかかわりながら生活する人も増えていきます。一方で、文化や言語、習慣などの「違い」や偏見から生じるトラブルがもとで、外国人が増えることに抵抗を感じる人も少なくありません。また、スマートフォン急速な普及につれて、SNS内でのいじめや差別も深刻化し、大きな社会問題となっている中、一人ひとりがSNSを利用する際のマナーや配慮について考える必要があります。

今回、紹介する人権啓発ビデオ「サラーマット」



「サラーマット」は、SNS時代における外国人の人権がテーマです。

外国人とのさまざまな違いを「壁」と捉え、新しく職場にきた外国人を面倒な存在と感じる主人公。しかし、対立と交流を通して新たな視点を持った主人公は、「違い」が問題解決の糸口であり、外国人は助け合うことができる対等な仲間であることに気づきます。また、物語において重要な役割を果たすSNSの、人を傷つける道具ではなく、人と人の心をつなぐために利用される様子がドラマチックに描かれ、外国人との関わりを通して、国籍、人種、言語、習慣、宗教などの異文化に対する理解を進め、共に生きていくことについて考える作品となっています。

出演／真飛 聖、JL、金子 昇、草村礼子
企画／兵庫県、(公財)兵庫県人権啓発協会
企画協力／兵庫県教育委員会
制作／東映株式会社

DVD／字幕副音声付／36分

編集後記

1年間、「まるごとじんけん」をご覧いただき誠にありがとうございました。春が到来するこの季節は、多くの方が、新しい人生の始まりを迎える時期でもあります。期待と不安がおありのことと思いますが、みなさまの更なる活躍を目に浮かべつつ、お祈りしています。(PA)

第58号のクイズの当選者は次の20名です。図書カードをお送りします。(敬称略)

- 股野須美子(佐野) 横山信弘(志筑) 中谷菜摘(中田) 出店美恵子(木曾上) 増田照子(志筑) 渡辺敏子(塩尾) 仲野知子(佐野) 平田一男(岩屋) 藤郁子(岩屋) 戎美香(久留麻) 久賀田衣美(久留麻) 金崎光子(大磯) 布谷益子(浦) 田上幸子(多賀) 阿部日佐子(江井) 岡崎桂子(郡家) 小溝悠馬(青波) 竹村和代(浅野南) 繁田喜代子(生田大坪) 越生美久子(浅野南)
- ※正解は「オトシダマ」。
応募総数は、107通でした。